会期＝ 2015 年 7 月 7 日 ( 火 ) － 8 月 30 日 ( 日 )
休館日＝ 8 月 3 日（月）
開館時間＝ 10:00-18:00［毎週金・土曜日は 20:00 まで］ ※ 入場受付は閉館の 30 分前まで
主催　千葉市美術館、日本経済新聞社 ／後援　オーストリア大使館、ブリティッシュ・カウンシル、一般社団法人 日英協会 ／
協賛　大伸社／協力　オーストリア航空、全日本空輸、ルフトハンザ カーゴ AG
観覧料＝一般 1000（800）円／大学生 700（500）円
※ 小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者 1 名は無料
※( ) 内は前売券、団体 20 名以上、および千葉市内在住 65 歳以の方の料金
※ 千葉市美術館ミュージアムショップ［6 月 28 日まで］、ローソンチケット［L コード：33607］、セブンイレブン［セブンチケット］、
千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口［8 月 30 日まで］にて販売。

**― 親子割引 ―**
**一般 800 円**
（高校生以下のお子様とご一緒にご来館の保護者 2 名まで）

〔巡回展情報〕姫路市立美術館（2015/10/31–12/24）、郡山市立美術館（2016/1/16–3/21）、静岡市美術館（2016/4/9–5/29）

## 展覧会概要

20 世紀を代表するイギリスの陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）は、ウィーンの裕福なユダヤ人家庭に生まれました。当時ウィーンでは、画家グスタフ・クリムトや建築家ヨーゼフ・ホフマンに代表される造形芸術の新たな動向が芽生えており、ルーシーもこれらに触れながら育ちます。

ホフマンも教鞭を執ったウィーン工業美術学校の聴講生となった 1921 年、ここで轆轤の面白さに魅了された彼女は、陶芸家になることを決意します。その後はさまざまな展覧会に出品し、作家としての地位を確立していくものの、戦争へと向かう時代の中、1938 年、イギリスへの亡命を余儀なくされました。以後 1990 年に病で倒れるまで、半世紀以上にわたりロンドンで制作を続けました。

轆轤によって生み出される優美で緊張感のあるフォルム、象嵌や掻き落としなどによる独自の文様、釉薬のあたたかみのある色調などは、ルーシー・リーならではの造形世界であり、それらの作品が放つ繊細でありながら凛とした存在感は、多くの人々を魅了し続けています。

本展は、ルーシー・リーの没後 20 年を機に、初期から晩年に至る約 200 点の作品で彼女の足跡を辿り、その魅力に迫ろうとするものです。展示作品の大半が日本初公開となるほか、今回新たに発見されたウィーン時代の作品もご覧いただきます。

Lucie Rie Archive, Sainsbury Centre for Visual Arts, University of East Anglia ,UK

■ ルーシー・リー略歴

1902 年　3 月 16 日ルーシー・マリー・ゴンペルツ、オーストリア・ウィーンに生まれる。
1922 年　ウィーン工業美術学校に入学。
1926 年　ウィーン工業美術学校を卒業。ハンス・リーと結婚。
1928 年　アパートメントに窯を設置する。以降、ヨーロッパを中心とした展覧会に出品。
1937 年　「パリ万国博覧会」に出品し、銀メダルを受賞。
1938 年　ナチスの迫害を逃れて、夫と渡英。
1939 年　ロンドン南部アルビオン・ミューズに工房兼住居を構える。
1940 年　ハンス・リーと離婚。
1946 年　ハンス・コパーがアルビオン・ミューズの工房に参加。
1948 年　イギリス国籍を取得。この冬頃、新しい電気窯を工房に設置。
1949 年　イギリスでの最初の個展開催。以降、各地で個展やグループ展に参加。
1990 年　脳卒中で倒れ、記憶のほとんどを失い、制作活動を断念する。
1991 年　大英勲章第二位を授与される。
1995 年　4 月 1 日アルビオン・ミューズの自宅にて死去。（93 歳）

〔主な日本国内の展覧会歴〕1989 年「現代イギリス陶芸家　ルゥーシー・リィー展」（草月会館など）、2002 年「生誕 100 年記念　ルーシー・リー展〜静寂の美へ」（滋賀県立陶芸の森陶芸館など）、2009 年「U-Tsu-Wa ／うつわ−ルーシー・リー、ジェニファー・リー、エルンスト・ガンペール」展（21_21 デザインサイト）、2010 年「ルーシー・リー展」（国立新美術館など）

## 見どころ

**・在学中の作品を含むウィーン時代の作品 5 点が初公開！**

近年、オーストリア応用美術・現代美術館（MAK）の調査により、ルーシー・リーがウィーン時代に制作した作品が新たに発見されました。私たちのよく知る彼女の作品よりも荒削りなものですが、釉薬の色使いやシンプルな形はその後のルーシー・リー・スタイルを予感させるものです。日本では本展が初めての公開となり、その後の作品とあわせて様式の変化をお楽しみいただけます。

**・前回の大回顧展と本展の違い**

2010 年国立新美術館で開催された大規模な個展「ルーシー・リー展」は、国内でのルーシー・リー人気に火をつけた展覧会です。本展はその対をなすものとして企画されました。前回の展覧会（2010 年）以降に国内でコレクションされた作品からも多くの優品を紹介し、本展出品作 199 点のうち大半が日本初公開となります。

**・日本で人気の高いルーシー・リー**

日本でルーシー・リーの作品が本格的に紹介されたのは、1989 年の草月会館での展覧会でした。以降、ファッション誌やライフスタイル誌などで憧れのうつわとして見られるようになり、若い女性を中心にルーシー・リーのファン層が広がりました。そして 2009 年、2010 年の大規模展覧会により、一層人気が高まっています。

日本でのコレクションも急激に増え、その特徴としては 70 ～ 80 年代制作の上品なものが多く見られ、本展の出品作品にもその傾向が顕著に現れています。国内での人気は、本国イギリスに次ぐほど高いものといえます。

## 関連企画

### ■ 講演会（要申込）

**1**「ルーシー・リー・スタイルの形ができるまで」
講師：金子賢治（茨城県陶芸美術館長）
7 月 20 日（月・祝） 14：00 より（13：30 開場予定）
11 階講堂にて　定員 150 名　聴講無料

**2**「再現　ルーシー・リーの制作技法について」
講師：小山耕一（陶芸家）
7 月 26 日（日） 14：00 より（13：30 開場予定）
11 階講堂にて　定員 150 名　聴講無料

### ■ ワークショップ（要申込）

**3**「オートクチュールのボタンをつくる」
オーブンを使って焼くことができる陶芸粘土を使い、ボタンをつくります。
8 月 2 日（日） 14:00 より
11 階講堂にて　定員 20 名　参加費 300 円
（当館ホームページにて詳細をご確認の上、お申し込みください。）

**【申込方法】**
往復はがきに郵便番号、住所、電話番号、氏名、参加希望のイベント名、人数（各 2 名までお申込可）を明記の上、
〒 260-8733　千葉市中央区中央 3-10-8　　千葉市美術館　イベント係　までお送りください。※ お申込は、はがき 1 通につき 1 イベント、締め切りは、**1** ▶ 7 月 8 日（水）、**2** ▶ 7 月 15 日（水）、**3** ▶ 7 月 22 日（水）必着。申込多数の場合は抽選。

### ■ 市民美術講座

「ルーシー・リーのうつわ」
講師：山根佳奈（当館学芸員）
8 月 22 日（土） 14:00 より（13：30 開場予定）
11 階講堂にて　先着 150 名　聴講無料

### ■ ギャラリートーク

担当学芸員による– 7月8日（水）14:00より
ボランティアスタッフによる –
会期中の毎週水曜日（7月8日を除く）14:00より
※水曜日以外の平日14:00にも開催することがあります。会場の混雑状況により中止となる場合があります。

### ■ 中学生のためのギャラリークルーズ '15

子どもだけでの来館と鑑賞をサポートします。受付順にグループを組み、ボランティアリーダーと「ルーシー・リー」展を鑑賞します。1 人でもグループでも参加可。夏休みの宿題（展覧会鑑賞）にも対応できます。参加希望の方は直接会場へお越し下さい。
7 月 24 日（金）、25 日（土）／ 10:00 ～ 15:00
随時受付／展示室にて

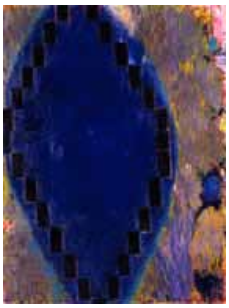
### ■ ふしぎなシルエットを探せ！

展覧会を楽しむためのクイズシートを用意します。
会期中受付にて配布。無料。小学生向け。

### ■ 特別企画「美術館で縁日気分 !!」

「千葉の親子三代夏祭り」にあわせて様々なお楽しみブースを用意します。
8 月 16 日（日）13:00 ～ 17:00
1 階さや堂ホールにて　＊会場の出入りは自由です。

## 同時開催



辰野登恵子《Work 89-P-13》
1989 年　千葉市美術館蔵

### 所蔵作品展「辰野登恵子がいた時代」

「ルーシー・リー」展にちなみ、女性作家を取り上げ、昨年急逝した辰野登恵子（1950-2014）の作品を中心に紹介します。

＊「没後20年 ルーシー・リー展」をご観覧の方は無料

**■ 市民美術講座**　「辰野登恵子　かたちの生成」

講師：藁科英也（当館学芸課長代理）

7月18日（土）14:00より（13:30開場）

11階講堂にて　先着150名　聴講無料

## 記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧いただきます。

7月7日（火）／14:00より（1時間程度）／10階会議室にて（その後、8・7階展示室へご案内いたします）

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

## 次回展予告

林閬苑《得双寿図》個人蔵

### 開館20周年記念　唐画（からえ）もん―武禅（ぶぜん）に閬苑（ろうえん）、若冲も

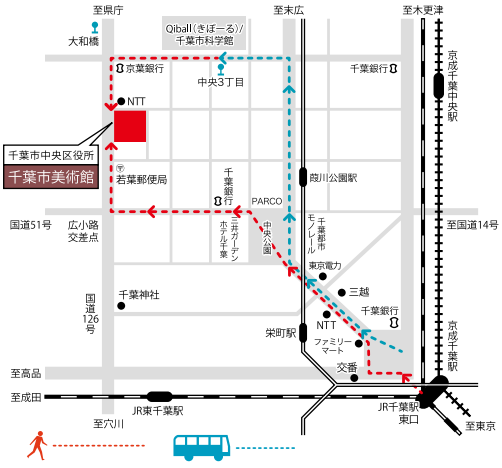
9月8日(火)－10月18日(日)

江戸時代中期の大坂で活躍した個性的な絵師、墨江武禅（すみのえぶぜん）（1734-1807）と林閬苑（はやしろうえん）（1770-80頃活動）を、同時代の大坂や京都で活躍した伊藤若冲、曾我蕭白ら個性派の絵師たちとあわせて紹介します。

## 交通案内

千葉市美術館
〒 260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311（代）／ FAX. 043-221-2316 ／ http://www.ccma-net.jp

◎ JR 千葉駅東口より
・徒歩約15分
・バスのりば ⑦ より大学病院行または南矢作行にて「中央 3 丁目」下車徒歩約3分
・千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園（よしかわ）駅」下車徒歩約5分
◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚 IC 下車国道51号を千葉市街方面へ約 3km、広小路交差点近く
◎千葉市中央区役所と同じ建物です
◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX にてご連絡ください。画像の使用は 1 回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

1．《ピンク線文鉢》
1980年頃　個人蔵
Estate of the artist
撮影：上野則宏

2. 《ピンク線文鉢》
1980年頃　個人蔵
Estate of the artist
撮影：上野則宏

3. 《白釉青線文鉢》
1979年　東京国立近代美術館
Estate of the artist
撮影：上野則宏

4. 《黄釉線文鉢》
1968年　イセ文化基金
Estate of the artist
撮影：大屋孝雄

5. 《熔岩釉鉢》
1970年頃　個人蔵
Estate of the artist
撮影：伊奈英次

6. 《線文大鉢》
1958年　イセ文化基金
Estate of the artist
撮影：大屋孝雄

7．《スパイラル文花器》
1980年頃　個人蔵
Estate of the artist
撮影：大屋孝雄

8. 《線文円筒花器》
1968年頃　個人蔵
Estate of the artist
撮影：大屋孝雄

9. 《陶製ボタン》
1940年代　個人蔵
Estate of the artist
撮影：大屋孝雄

# 開館20周年記念　没後20年　ルーシー・リー展
# 広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

## ■ 写真ご使用に際してのお願い

* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
* 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
  原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

| | |
|---|---|
| 貴社名 : | 媒体名 : |
| ご担当者名 : | 発行予定日 : |
| TEL : | 発行部数 : |
| FAX : | 定価 : |
| Email : | 掲載予定コーナー名等 : |
| 画像到着希望日 :　　月　　日　　時まで | 画像の掲載サイズ（おおよそで結構です 例：5cm 四方、など） : |

## ■ 画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

1. ルーシー・リー 《ピンク線文鉢》 1980年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：上野則宏
2. ルーシー・リー 《ピンク線文鉢》 1980年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：上野則宏
3. ルーシー・リー 《白釉青線文鉢》 1979年 東京国立近代美術館 Estate of the artist 撮影：上野則宏
4. ルーシー・リー 《黄釉線文鉢》 1968年 イセ文化基金 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄
5. ルーシー・リー 《熔岩釉鉢》 1970年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：伊奈英次
6. ルーシー・リー 《線文大鉢》 1958年 イセ文化基金 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄
7. ルーシー・リー 《スパイラル文花器》 1980年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄
8. ルーシー・リー 《線文円筒花器》 1968年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄
9. ルーシー・リー 《陶製ボタン》 1940年代 個人蔵 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄

## ■プレゼント用招待券申込
（ご希望の場合はチェックをつけてください）

□ 5 組 10 名様分 希望します。
（それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。）

チケット送付先
ご住所 : 〒

問い合わせ先
千葉市美術館 〒 260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311（代表）/ 043-221-2313（直通）
Fax. 043-221-2316
HP. http://www.ccma-net.jp/

担当学芸員：山根佳奈
広報担当：磯野 愛